

令和8年度第1回川口市廃棄物対策審議会議事録

- 1 開催日時 令和8年7月28日（火）午後2時00分から午後3時15分まで
- 2 開催場所 リサイクルプラザ4階 研修室
- 3 出席者 (1) 川口市廃棄物対策審議会委員：12人
市議会議員：稲川 和成（会長）、幡野 茂
市 民：森田 康代、守谷 裕之、星野 恒治
川嶋 栄子、遠山 玲子、戸田 良子
事業者：林 嘉和、岩崎 康彦、鈴木 守郎
関係行政機関：地形 祐司
(2) 事務局：24人
須藤環境部長、平山朝日環境センター所長、沼口環境総務課長
大津資源循環課長、中村産業廃棄物対策課長、岩田環境施設課長
中野新戸塚環境センター建設室長、吉川収集業務課長
梨子木戸塚環境センター所長、岩下リサイクルプラザ所長
塚平鳩ヶ谷衛生センター所長
環境施設課金子課長補佐、柴道主査、大寺技師
リサイクルプラザ山田副主幹、濱田副主幹
収集業務課松本課長補佐、資源循環課板橋課長補佐、坂本課長補佐
佐藤主査、仲田主任、小林主任、布施主任、神子主事
- 4 傍聴者 3人 傍聴申込受付期間：令和8年7月21日（火）から
令和8年7月27日（月）まで 定員6人
- 5 議 題 (1) 令和7年度ごみ処理実績について
(2) 川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例の一部改正について
(3) 朝日環境センターの施設整備について
(4) 戸塚環境センターの施設整備について
(5) 川口市電力地産地消事業について
(6) その他

6 議 事 録

令和8年度第1回川口市廃棄物対策審議会
1 開 会

2 委嘱書交付	
川口市廃棄物対策審議会新任委員へ委嘱書交付	
3 挨拶	
会長挨拶	
議事録確認者選任 星野恒治委員が指名される。	
議題（１）令和７年度ごみ処理実績について	
事務局から、資料に基づき説明。	
委員	資料１、２ページ表６「焼却残渣物（資源化）」の定義はなにか。
事務局	県外施設にセメント資源、路盤材資源、溶融資源として搬出しているものである。
委員	焼却残渣物は売却しているのか。また、すべて一括で引き取ってもらえないのか。
事務局	売却ではなく、処理費用を支払って処理している。また、毎年度各自治体で搬出可能量が決まっているため、一括で搬出することは難しい。
委員	１ページ表２「有害ごみ（蛍光管）」が増加している原因はなにか。また、集団資源回収とはなにか。
事務局	有害ごみの増加の要因として考えられることは、蛍光管からＬＥＤ管への取り換えによるものである。
事務局	集団資源回収とは、町会・自治会及びマンション管理組合等の団体が古紙類や繊維類を自主的に回収する活動であり、回収量１キログラムにつき１０円の助成金を交付する制度である。
委員	リサイクル率や資源化率が減少しているが、現状の資源物では既にやり尽くし、これ以上の増加は見込めない。そのため、一般ごみである生ごみをたい肥化して減らすことで増加することができるのではないか。
事務局	生ごみのたい肥化は、リサイクルや資源化という観点ではなく、ごみとして排出しない発生抑制策として今後も啓発に努めていく。
委員	２ページ表５「最終処分量」に、他自治体等へ外部委託した一般ご

	みの最終処分量は計上されているのか。
事務局	最終処分量に外部委託した一般ごみについては含まれていない。委託処理をした一般ごみの実績については、3 ページのフローチャートに一般ごみの委託処理を記載している。
委員	表 5 の最終処分量は市内で処理されたものということか。
事務局	そのとおりである。
委員	6 ページ、イ粗大ごみの推移について、令和 6 年度に事業系粗大ごみの排出量が著しく増加している原因はなにか。
事務局	事業者が排出するものとなるため、詳細は不明である。
委員	7 ページ、未達成の目標値については、令和 8 年度で新たに目標値を設定するのか。
事務局	令和 7 年度の目標値は第 7 次川口市一般廃棄物処理基本計画によるものであり、令和 8 年度以降については、昨年度策定した第 8 次川口市一般廃棄物処理基本計画にて中間年度である令和 1 2 年度、最終年度の 1 7 年度に向け新たな目標値を設定した。 未達成となったリサイクル率と最終処分量については参考指標として扱い、特に朝日環境センターの建て替え時の炉形式により変動があるため最終処分量については増量としている。
議題（2）川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例の一部改正について	
事務局から、資料に基づき説明。	
委員	従来の破碎処理施設で処理できなかったスキー板等を今後、新破碎処理施設で処理することができるのはなぜか。
事務局	新粗大ごみ処理施設では、従来の施設にはない 2 軸の破碎機を設置するため、処理可能となる。
委員	「市長の指定する粗大ごみ」とはなにか。
事務局	一辺の長さが 4 0 c m を超えるものである。
議題（3）朝日環境センターの施設整備について	
事務局から、資料に基づき説明。	

委員	処理方式について、環境影響やランニングコスト、再資源化等の様々な視点があるが、脱炭素やエネルギー利用も重要な視点である。脱炭素化目標も踏まえたうえで、検討していただきたい。
委員	資料 3、3 ページ③資源化施設の整備計画における事業方式について、選別保管建屋を本市、再商品化に必要な設備を廃棄物再生事業者が整備することとなったのはなぜか。
事務局	南ストックヤードは古い倉庫であるため、取り壊しを予定している。新施設の整備については、積み替えのみか、圧縮をするのか、再商品化をする設備を設置するのかについては未定のため、現時点で必要な建屋の設計と建築を進めていく予定である。
委員	南ストックヤードの資源化施設について、積み替え保管のみの場合は、プラント機器・設備を配置する場所はどのように活用するのか。
事務局	現時点では、積み替え保管のみを少しの間進め、委託契約の移行継続や再商品化等の実施の有無等を含めて今後検討していく。
委員	2 ページ④焼却棟の整備計画における処理方式がストーカ式・シャフト式・流動床式の 3 つが記載されているが、現時点での方向性を教えてほしい。
事務局	処理方式については、脱炭素化や焼却灰の資源化、スラグ化等も考慮し、朝日環境センター施設整備審議会にて記載の 3 つの方式に絞った。今後、事業者選定時に処理方式も含め慎重に選定を進めていく。
議題（４）戸塚環境センターの施設整備について	
事務局から、資料に基づき説明。	
幡委員	既存の東棟焼却処理施設から新焼却処理施設が綾瀬川沿いに近づいたのはなぜか。
事務局	東棟新焼却処理施設が既存の施設より大きいためである。また、今後の工事についても、地下の作業で、河川を壊さないように努めている。
委員	新焼却処理施設建設では、豪雨等による災害等危険に対する安全性は確保されているのか。
事務局	大雨の際には、施設内に水が浸入しないよう止水版を整備し、各扉に設置している。また、遊水機能を持たせ雨水を吸収するようにしている。

議題（５）川口市電力地産地消事業について	
事務局から、資料に基づき説明。	
委員	売電する余剰電力について、鳩ヶ谷衛生センター以外に供給が考えられる施設はあるか。
事務局	焼却施設である朝日環境センター及び戸塚環境センターのどちらかが稼働していない場合、稼働している施設から供給することを検討している。本庁舎も検討していたが、テナントの関係により難しい。また、学校等にも供給できないか検討している。
委員	実施することにより、コスト削減となる取り組みは何か。
事務局	自己託送の導入に伴い、再生可能エネルギー発電促進賦課金が不要となり、コストが削減される。
議題（６）その他	
事務局より、市内で実施したフードドライブ等及び、サンアール朝日の使用料について説明。 次回の廃棄物対策審議会の日程を伝達。	
委員	フードドライブでの食品の持ち込みについて、賞味期限等の制限はあるのか。
事務局	賞味期限が１ヶ月以上であり、未開封及び常温で保存可能なものが持ち込み対象となる。
議長	最後に委員のみなさんから何かあるか。
委員一同	意見なし。
議長	慎重な審議に感謝する。以上で本日の議事は全て終了する。
事務局	以上で令和８年度第１回川口市廃棄物対策審議会を閉会する。
閉会 (1 5 : 1 5)	

会議の内容については、以上のとおりです。

令和 8 年 8 月 1 8 日

川口市廃棄物対策審議会議長 稲川 和成

川口市廃棄物対策審議会委員 星野 恒治